

講演会で「ILCの理解を深める」
いわてILC加速器科学推進会議（亀井川富夫代表幹事）と一般社団法人国際経済政策調査会（東京都、高橋佑理事長）が主催する国際リニアコライダー計画講演会が6月6日、市文化会館（Zホール）で開催されました。市民など約300人が会場に詰め掛け、ILC計画の経済効果や課題などに理解を深めました。

同講演会では、（公財）日本生産性本部の澤田潤一（公財）日本政策部長と、県政策地域部の大平尚（公財）副部長が講演。はじめに、澤田氏が「ILC計画と



イノベーション効果を語る澤田部長

イノベーション効果を語る澤田部長
本コーナーでは、ILC計画について皆さんからの質問にお答えします。電子メール、ファクスでお気軽に質問ください。お問い合わせ先：本庁政策企画課ILC推進室（内線412・415、FAX 025533・1111city.oshu@iwate.jp）

次に、大平氏が「ILC実現を目指して現状と課題」と題して講演。ILCの概要や候補地である北上山地の特徴などのほか、文部科学省や国内外の研究者などの動向について説明しました。大平氏は、ILC実現に向けた地域の課題として、海外の研究者に向けた英語による情報発信の必要性と住宅やインフラなどの受け入れ環境の整備を提示。地域が一体となった

6月に市文化会館と県民会館を会場として、本年度初めてとなる大規模なILC講演会が開催されました。今回は、この講演会の様子などをお伝えします。



市が東北誘致に取り組んでいる「国際リニアコライダー（以下ILC）計画」について最新情報をお届けします

希望のひかり 第21回

熱意の発信と受け入れ準備を進めることを訴え、講演を締めくくりました。

地域一丸となった取り組み誓う

県国際リニアコライダー推進協議会は6月26日、公開ILC講演会（県民集会）を県民会館で開催しました。

この日は、東京大学カブリ数物連携宇宙研究機構の村山斉（カブリ）機構長や東京大学素粒子物理国際研究センターの駒宮幸男（カブリ）センター長、山下了（カブリ）准教授が講演。このほか、集まった県民など約500名は満場の一致で「ILC実現に向けての決議」を採択し、地域が一丸となり、熱意をもって取り組むことを誓いました。

外国人が住み良いまちに向けて

県内在住外国人で組織するILCサポート委員会（ビル・リス委員長）は、6月17日に小沢市長を訪問し、5月に開催したドイツ・マインツ大学の齋藤武彦教授との意見交換会の結果を報告しました。同委員会のケン・デイヴィ

=今後の予定=

▶ 8月23日（土）先端加速器科学技術推進シンポジウム2014 in 東北「ILCの日本実現に向けて」〔午後1時半、市文化会館（Zホール）〕講師：高エネルギー加速器研究機構鈴木厚人機構長、元県知事増田寛也氏、東京大学素粒子物理国際研究センター山下了准教授



ILCの将来展望を語る村山機構長

認知症介護者家族交流会 ぬくっこを開催します

認知症の人をお世話する家族同士で交流をしませんか？認知症への理解を深めながら、普段介護について思っていることや悩みを語り合い、お互いを助け合ひましょう。

■開催日 7月15日（土）、8月8日（土）、9月11日（土）、10月9日（土）、11月13日（土）、12月11日（土）、27年1月8日（土）、2月12日（土）、3月12日（土）
※全9回、1回のみ参加も可
■時間 午後1時半～3時半
■場所 奥州市民活動支援センター
■対象 認知症の人を介護している家族（本人同伴可）
※介護保険の認定の有無は不問

■内容 ミニ学習会（30分程度）、お茶を飲みながらの意見交換会、体操・レク・歌などによる心身のリフレッシュ
■参加料 無料
■申込期限 開催日の前日
■問い合わせ・申込先 市地域包括支援センター（内線289）

北上川堤防の強化に伴う通行規制を延期

北上川堤防の強化を目的とした工事に伴う交通規制解除を延期します。延期する路線は右図のとおりで、期間中は迂回をお願いします。

今後、天候などの影響により通行規制の期間が再度変更されることもあります。

なお、市道草井沼橋本線は、当初の計画どおり9月末日まで終日通行止めです。

■規制路線名 市道明神堂中島線
■規制期間 9月末日まで
■規制の方法 時間帯通行止め（午前8時半～午後5時）
■問い合わせ 東北地方整備局岩手河川国道事務所水沢出張所（☎ 4173）

■位置図および迂回路図



姉妹都市 掛川だより



小雨降るなか若竹を振り唱えことばを叫ぶ子どもたち

真夜中に若竹で厄払い

大淵地区に伝わる伝統行事「さなぶり」

掛川市内の大淵地区で6月22日深夜、小学生から中小生の子どもたちが、豊作や家内安全を祈願したり、厄払いをしたりする伝統行事「さなぶり」が行われました。

深夜0時過ぎ、子どもたちが眠い目をこすりながら集合します。「親方」と呼ばれるリーダーの指示で、御幣（みひら）を付け若竹を持った子どもたちが「ねんねこやいと・ほーらやいと」などの唱えことばを叫びながら、家の軒先で厄払います。

これを受けた各家がお礼としてお金を渡すと、後から親方が年齢や役割に応じてお金を配分。残りは親方の取り分となります。昔ながらの行事が今でもこの地域に伝承されています。